

えっ!? 餓死事件まで起きたのに人員体制はさらに悪化?

# 二度と悲劇を起こさないためにも、ケースワーカーの増員が必要です!

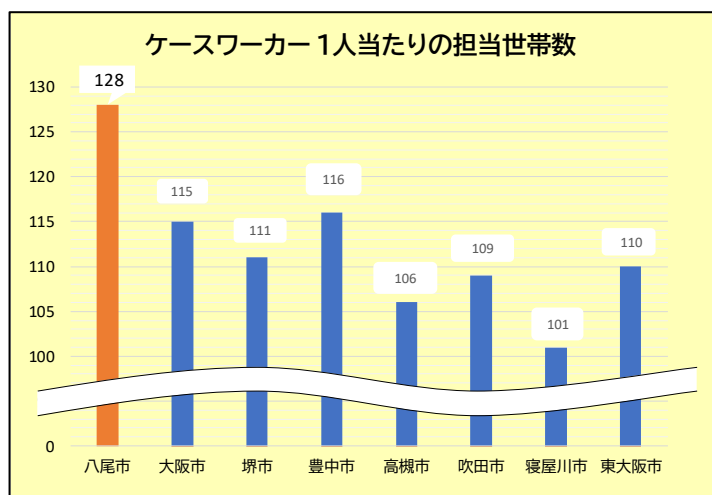
2020年2月、八尾市で生活保護を利用していた女性(57)と同居の長男(24)が餓死死体で発見されました。

私たちは、この事件についての調査活動を踏まえて、2021年2月16日、八尾市に対し、「生活保護行政の改善を求める要望書」を提出しました。(詳しくは、生活保護問題対策全国会議のホームページをご覧ください。<http://seikatuhogotaisaku.blog.fc2.com/blog-entry-386.html>)

その中で、事件の背景にある「ケースワーカーの人員不足」を解消することを要望しましたが、2021年4月以降、人員体制はかえって悪化しています。このままでは、第2、第3の悲劇が起きないか心配です。

## もともと府下最多の担当世帯数

八尾市のケースワーカー1人当たりの担当世帯数は、もともと大阪府下でも最多でした。



## 1人で133世帯担当に悪化!

都市部のケースワーカー1人あたりの担当世帯の「標準数」は80世帯です。八尾市は「標準数」を大幅に上回るだけでなく、2016年4月の120世帯から2020年4月の128世帯へと年々悪化してきました。餓死事件が問題となり、今年度はさすがに改善すると思いきや、何と逆に1人あたり133世帯へとさらに悪化。これで丁寧なケースワークを行うことなどムリです。

## ていねいなケースワークは、ますますムリに

八尾市は業務の改善策として、「ケース診断会議による組織的検討」や「訪問調査活動の充実強化と組織的進行管理」などを打ち出していますが、基礎となる人員体制が悪化する中で、会議や書類作成ばかりが増え、却って「利用者に寄り添ったケースワーク」ができなくなる危険があります。

## ～ 八尾市の対応について多くのご意見が寄せられています ～

八尾市母子餓死事件調査団では、2021年4月に、八尾市内に「八尾市母子餓死事件」のビラを2万枚配布しました。八尾市の生活保護でのひどい対応についてご意見が寄せられました。

コロナで困っている人は他にもいる。社会福祉協議会の特例貸付を使うよう言われ、生活保護の申請ができなかった。

ステージ3の癌患者です。3年間で一度も職員に訪問に来てもらえていません。

ビラで八尾市母子餓死事件が起きたことを知った。こういうことが二度と起きないために、返還金にかかわることで電話した。

2人世帯から単身世帯になり保護費が変更されたため、保護費を払いすぎた分の請求が来て返済をすることになった。八尾市から毎月2万円の返済を求められたが、それでは生活ができない。保護課は「一度決まったことだから変更できない」というが、なんとかならないものでしょうか。

## ～ 生活保護制度を活用する世帯の声 ～

■大阪府・大阪市は国に対し、生活保護世帯に医療扶助の一部負担(医療費の支払い)を導入するよう求めています。それに対する思いやひとこと。

★生活保護費を引き下げられた上に医療費の一部負担はとんでもないことです。

★病院へ行きたくても行かない人がでて、従って手遅れの入が多く出ると思う。

■生活保護を利用してよかったことは何ですか。

★毎月の診察、薬代を気にする必要がなくなり、安心して暮らしていける事に本当に感謝しています。

★節約しながらでも普通に生活できている事が助かってますし良かったです。感謝しています。

★年金だけでは生活ができず、保護を受けて助かっています。

生活と健康を守る会のアンケートより

## 八尾市母子餓死事件調査団

【連絡先】 八尾生活と健康を守る会 ☎ 072-997-5666 FAX 072-997-5540

全大阪生活と健康を守る会連合会 ☎ 06-6447-5105 FAX 06-6447-5106

八尾市母子餓死事件調査団は、八尾社会保障推進協議会、八尾生活と健康を守る会、生活保護問題対策全国会議、全大阪生活と健康を守る会連合会、弁護士、専門家などで構成されています。